



## 新型コロナウイルスが子どもから奪ったもの

新型コロナウイルスが 2020 年 1 月に日本国内で 1 例目が確認されてから約 3 年が経過しました。流行 1 年目の 2020 年 4 月 19 日時点では国内罹患者総数も 1 万 608 人とまだ多くありませんでしたが、死亡者数はすでに 171 人で、実際に罹ってしまうと 60 代の死亡率は 1.7%、70 代の死亡率 5.2%、80 代以上の死亡率 11.1%と相当に高い値でした。治療薬はなく、予防接種もまだなかったので、他人との接触を避けることでウイルス感染を防御する以外に感染、発症、重症化を防ぐ方法はありませんでした。また集団感染（クラスター）の発生を避けるために、大勢が一同に集まるのが困難となり、学校は休校、保育所も休園となりました。

しかし、他人との接触を避けることは、他人とのコミュニケーションを避けることであり、他人との意思疎通の機会が奪われます。テニスの壁打ちのように、野球、サッカーなどもボールを壁に当てて一人で練習することも可能ですが、相手がいるラリー、キャッチボール、パスをしなければ動きのある練習はできず、試合に使える実践的な経験は困難です。また、最初から上手な選手は誰もいません。コーチから教わるだけでなく、何度もエラーしながら、力の加減、身体の動き、相手とのタイミングなどを自分で会得して初めて上手にできるようになるのです。子ども同士のコミュニケーションも同じです。親や教師も含めて周りの大人の様子を見て学び、友だちとの交流の中で、小さな達成感やちょっとした嫌な思いを繰り返しながら上手に意思疎通ができるようになります。多くの人と非日常的に意思疎通をする場面を提供する役割をもつ各種行事も、その多くが中止や延期となっていました。子ども達が交流する機会を大人たちは今後意識的に用意する必要がありそうです。

新型コロナ流行前の 2019 年の国内婚姻数は 58 万 3 千組でしたが、2020 年は 52 万 6 千組、2021 年は 50 万 1 千組に減少しています。経済的な不安や感染状況から披露宴ができずに延期していた場合もあるとは思われますが、結婚に至るコミュニケーションの機会が少なかったこともその一因でしょう。マスクをつけた顔でしか会話できないことこれから影響が出るかもしれません。子どもだけでなく、人付き合いに苦勞する大人も増えるのかもしれません。



## 言葉の発達

子どもの性格や環境によって言葉の発達のスピードは異なります。積極的に話しかけることはもちろんのこと、子どもにとって聞こえの良いやや高めめのトーンでゆっくり抑揚をつけて話すと子どもの心をリラックスさせることができます。

一般的な目安としてですが言葉の発達段階は

・生後 2 ヶ月～1 歳

「あ～」「う～」といった喃語

・1 歳～2 歳

「まんま」「わんわん」「プープー」といった意味をともなう一語文

・1 歳半～2 歳

「わんわんいた」「プープーきた」「これちょうだい」など二語文が始め会話らしくなる

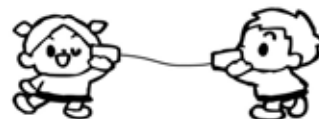
・2 歳～3 歳

「ママ、これよんで」など三語文を使い始める時期。

「なんで?」「どうして?」という疑問や好奇心を持つようになってくるのでなるべく質問に答えてあげましょう。

言葉の発達には「聴力」「知能」「発声のための運動機能」「言葉を話す要求」が必要であるため、いずれかの要素に問題があると言葉の発達が遅れることがあります。自分から話そうとしない、年齢の割に話せる言葉が少ないなど周囲の子どもより言葉が遅いと不安に思われるときは一度ご相談下さい。

お子さまの成長と一緒に見守っていきましょう。



## 崎山先生の当番日

『府中市市民保健センター』042-368-5311

1/3(火) 休日診療(9:00～11:30/13:00～16:00)

1/31(火) 夜間診療(19:30～22:00)

